

はじめに

ここに『国際交流基金日本語教育紀要』第3号をお届けできることは、私どもの慶びです。

本紀要には、当基金の日本語教育事業に携わる日本語教育専門員・専任講師、客員講師、派遣専門家、職員等が、日々の活動の中で取り組んできた問題や課題をまとめた「研究論文」（研究成果に独創性がある、理論的・実証的論文）、「研究ノート」（教育、教材開発などの実施過程でまとめられた中間研究報告）、「実践報告」（教育、教材開発などの実践の目的、特色、経過、成果などについて紹介、分析した報告）、「報告」（国際交流基金が実施する事業に関する報告や海外の日本語教育関係機関の視察報告等）として執筆したものの中から、編集委員会による厳正かつ公平な審査の下、計13編を選定し掲載しました。

私どもが主宰する「日本語教育懇談会」から、提言「今こそ、世界に開かれた日本語を一教育、普及体制の強化を訴える」が、2007年2月に外務大臣に提出されました。その主旨は、日本語教育関係機関の連携と協働の強化ですが、当基金においてはそれを踏まえつつ、喫緊の課題である「日本語教育スタンダード」の構築と、日本語能力試験の改定に取り組んでまいります。

本紀要に対する各方面の皆様からの忌憚のない御意見、御批判をいただければ幸いです。

2007年（平成19年）3月

国際交流基金